

第二回理事会報告 秋から年末の取り組みを討議！

地域を基礎に草の根からの 平和のたたかいを構築しよう！



9月11日（日）、午後1時から、青少年会館において第2回理事会が開催されました。42人が参加、議長は近藤輝男さん（土浦）。発言者は延べ30人でした。また、日本平和委員会からは、岩月事務局次長が駆けつけてくれました。

▼ 水野代表理事のあいさつ：

情勢は戦争前夜を想起するきな臭いものがあります。

防衛大臣に就任した稲田氏は「戦争法（安保法制）に基づいた自衛隊の訓練を全面的に着手していく」と表明しました。自衛隊はすでに訓練を開始しています。事実上の内戦状態にある南スーダン派遣の任務は、憲法で禁止されている殺し殺される危険が増大しています。安倍政権の暴走を止めるには「戦争をさせない」の一点で多くの団体・個人と共同することが極めて重要になっています。

2020年のオリンピックにおけるテロ対策に便乗して、「共謀罪」の名称を変えて国会提出することなど許してはなりません。高江のヘリパッドや新基地建設を許さないたたかいでは沖縄の現地と連帯した取り組みが求められています。

平和委員会は批判だけでなく、立ち上がり行動し、共同の力で情勢を変えていかなければなりません。本日の理事会で討議し決定されたものを直ちに実行しましょう。



【各平和の会からの発言等
抜粋は別刷り版参照】

▼ 岩月日本平和委員会事務局次長のあいさつ：

国会で決着をつけないければ沖縄の状況は変わらない！

参議院選挙でたたかった共同の力を次の衆議員選挙でも大きく発展させることが大切です。沖縄では衆・参すべての国会議員でオール沖縄の候補者が当選しました。しかし安倍政権は参院選が終わった翌日に高江のヘリパッド建設を強行しました。この事実は、全国で勝利しなければ沖縄の現状を変えるのが難しいということです。沖縄の闘いに全国から支援することはもちろん重要です。しかし国会で決着をつけないければ沖縄の状況は変わらないのです。

選挙区ごとに強力な平和委員会があり、力を発揮することが沖縄問題解決の力！

今度の参議院では、市民と政党が共同してたたかいました。これからは選挙も市民が主人公となるのです。平和委員会も市民の一員です。ここが非常に大事な点です。今度の日本平和委員会理事会の方針に「選挙区」という言葉が入っています。選挙区ごとに強力な平和委員会があり、平和委員会も市民の一員となって選挙を闘う、力を発揮するということが沖縄問題の真の解決を進める大きな力となります。

市民と立憲野党が共同して闘うことがかなめ！

市民と改憲に反対する野党（立憲野党）が共同して闘えば選挙も大きく変わり、国会でも与野党の議員構成が大きく変わります。大きな変革の流れの中で平和委員会がどのように力を発揮するのが問われています。茨城の皆さんと勉強したいと思います。（拍手）

戦争法廃止！風雨について水戸に200人！

9.19茨城県民共同 アクショントークを開催

大型台風16号が近づく風雨激しいなか、国会前2万3千人の集会に呼応し、水戸駅前北口に200人が集まり、戦争法廃止、個人の尊厳を大切にする政治の実現の声を上げました。「戦争法廃止を求める茨城県実行委員会」と「茨城県市民連合」が共催しました。



～戦争法強行可決から1年～
忘れない！ 諦めない！

田中重博代表は戦争法への怒りとともに「戦争法は必ず廃止する。廃止できるまで闘う」決意を述べ、県市民連合田村武夫事務局長は、参院選の11の1人区で立憲野党が勝利したことの意義と「立憲野党と市民のさらなる共闘」を呼びかけました。

リレートークでは「ソーダ@いばらき」や茨城大学生など、若者が戦争法の廃止訴え、医労連や保健生協は、戦争法に暴走する安倍政権が医療や介護の大改悪を推進している事実と、戦争廃止と連帯した医療・福祉の取り組みの重要性を訴えました。弁護士、共産党は「人権や民主主義を守ってこそ平和」「安倍政権を退陣に追い込もう」と訴えました。

最後に音楽隊が先導して「戦争法廃止」「平和がいいよね」などのコールを行いました。この日県内ではつくばみらい市で集会とパレード、取手市で集会が開催されました。

平和新聞

2016年9月25日（日曜日）

2120号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 758
2016.9/25
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

茨城革新懇 記念講演 & 第36回総会 記念講演「市民プラス野党」 共闘の現状と課題

とき 2016年10月16日（日）13:30～ 3:00

ところ 茨城県立青少年会館研修室 参加自由・無料

主催 平和・民主・革新の日本をめざす茨城の会（茨城革新懇）

講師 五十嵐 仁 氏（法政大学名誉教授）

1951年生。2014年3月まで、法制大学大学大原社会問題研究所教授・所長 ネットで「五十嵐仁の転成仁語」を毎日アップ

沖縄高江N1ゲート前座り込み報告

つくば市平和委員会は、沖縄高江のヘリパッド建設反対の現地座り込みに参加するため、9月2日（金）から5日（月）まで3泊4日の日程で、若者4名を含む6名で行って来ました。【文責：つくば市平和委員会 事務局・荒井 陽一】

座り込みは朝が早い、午前3時30分、宿泊地「でいご家」で知り合った仲間が作ってくれたおにぎりを食べ集合時間の6時に間にあわせるため出発、東村高江の集落の手前にある大泊橋手前で機動隊により30分ほど足止めされたが、集合時間を気にしてN1ゲート前に向かう。

N1ゲート前ではすでに住民が座り込んでおり、その周りを警察が囲んでいた。私たちも内側の座り込みに3名、山城さんの指示のもと警察を取り囲むように2名、写真撮影1名の体制で座り込みに参加した。警察を住民が取り囲んだ時、緊張はすぐ起きた。路駐の約40台の警察車両から多くの機動隊が集結したからだ。この時間は私も正直不安になったが、機動隊は本部からの指示待ちのようで、待機していた。その後、平和市民連絡会が弁護士同行のもと大型バスで現れたのち、機動隊はN1ゲート前から一斉に撤退した。その後N1ゲート前では、糸数参議院議員、県議・市長村議員、退役軍人をつくる「ベテランズ・フォー・ピース」及び各市民団体の代表が共に闘うことを訴えた。



N1ゲート到着時の模様

その後、12時頃N1ゲート前での参加者は、高江橋に移動し、約200人で車両を周辺に止め、ダンプカーの搬入を警戒した。14時すぎN1ゲート付近に止まっていた警察車両は続々と撤退し、15時頃、山城さんが「今日は砂利の搬入はない」と「勝利宣言」し15時半すぎこの日の一斉行動が終了した。

私たちはその後、N1裏テントに移動し長期滞在の住民から高江ヘリパッド建設の進捗状況を聞いた。



高江橋での行動



N1テント裏で地図を見ながら説明を受ける

上記が高江周辺の全体図である。沖縄本島北部の国頭村と東村にまたがって米軍の北部演習場がある。東村を中心に6箇所のヘリパッドが建設されようとしている。N-4の2箇所はすでに建設され残りの4箇所を建設しようとしている。昨年9月茨城県平和委員会でお訪れたN-1テントは、今年の7月22日に強硬に排除され今はない。今は道路の反対側にテントを設置している。なぜ、N-1テントは排除されたか？N-1に2箇所建設するヘリパッドはN-1テントを排除して道を作らなければ建設できないから。毎日、20～30台のダンプがヘリパッド建設を急ぐため搬入されているとのこと。HとGのヘリパッドはN-1裏テントがある農業道路を使わないと作れない。そこで政府は村長と交渉しているが、村長は生活農業道路なので使わせない。また、住民との間で混乱があっては困るとしている。政府は、混乱がなければ使っていると解釈し、N-1裏テントを排除する計画だろうと住民側は多くの市民・県民・国民の参加を呼びかけている。

私たちは、基地の県内移設に反対する県民会議が水曜・土曜を総行動の日と決め、高江に結集しようと呼びかけた最初の日に参加したようだ。ヘリパッド建設に反対する住民は、建設を阻止するためには水曜・土曜だけでなく月・火・木曜日にも多くの仲間が集まってほしいと呼びかけている。

私たちは、7月22日のN-1テントの強硬排除及びヘリパッド建設に反対する住民の呼びかけに応じるため参加したが、高江の静か

な森に住めなくなる現実、その理由が米軍が準備する戦争のためのヘリパッド建設であることを肌で感じた。この現実には住民の人権が踏みにじられ、憲法9条が無視されている状況であった。

「今、高江で何が起きているのか？」
体を張った沖縄の住民運動から「権力に負けるかもしれない、でも闘うよ」と語られ、「権力に負けるかもしれない、でも闘うよ」と頷いた沖縄高江の座り込み体験でした。



ベテランズ・フォー・ピースの挨拶



糸数参議院議員の挨拶

廃止、諦めない…各地で抗議集会

安全保障関連法の成立から1年

安全保障関連法の成立から1年となった19日、国会前で抗議集会が開かれ、市民らが「みんなで憲法守ろう」「廃止まで諦めない」と反対の声を上げた。成立後、日本の安全保障環境は厳しさを増し、自衛隊の新任務である駆け付け警護の付与も秒読み段階だが、安政法制を巡る安倍政権への批判はやんでいない。

